

保田海岸コース

砂浜をはだしで歩きたい

弧を描くようにのびる砂浜、そして、水平線の向こうには三浦半島。
保田海岸は、文豪・夏目漱石が訪れた、房州海水浴発祥の地であり、古くから避暑地として、多くの文化人に愛されてきました。
行き交う舟、おだやかな波の音、優しく肌をなでる潮風
流木や貝殻、シーグラスを探しているうちに、童心に帰って砂浜をはだしで歩きたくなるかも……。
かつて文人たちも歩いたこの保田海岸、ぜひその空気を感じながら散策してみてください。

保田海岸の夕ぐれ



大正～昭和初期の頃の
保田周辺の風景



明治の文豪
夏目漱石

保田は、「浮世絵の祖」と言われる菱川師宣の生誕地。浮世絵師・歌川広重の絵にも、保田海岸が登場しており、浮世絵とは縁の深い地です。

また俳人・小林一茶、小説家・徳富蘆花、歌人・若山牧水など、数多くの文人、墨客が保田を訪れ、名句、名詩、名文を残しています。

明治22年、当時第一高等中学校の学生だった夏目漱石が保田海岸に海水浴で訪れ、房州紀行『木屑録(ぼくせつろく)』を記し、それを読んだ正岡子規も2年後に保田を訪れています。房州海水浴発祥の地である保田海岸は、文人のみならず、多くの人々が訪れていた、関東きっての避暑地でした。

現在では、テレビドラマやCM、映画、スチールの撮影地として、密かに脚光を浴びています。



TVドラマの撮影風景



初代歌川広重
「房州保田海岸」



三代歌川広重
「安房国水仙花」



戦後の記念切手
第1号
菱川師宣
「見返り美人」